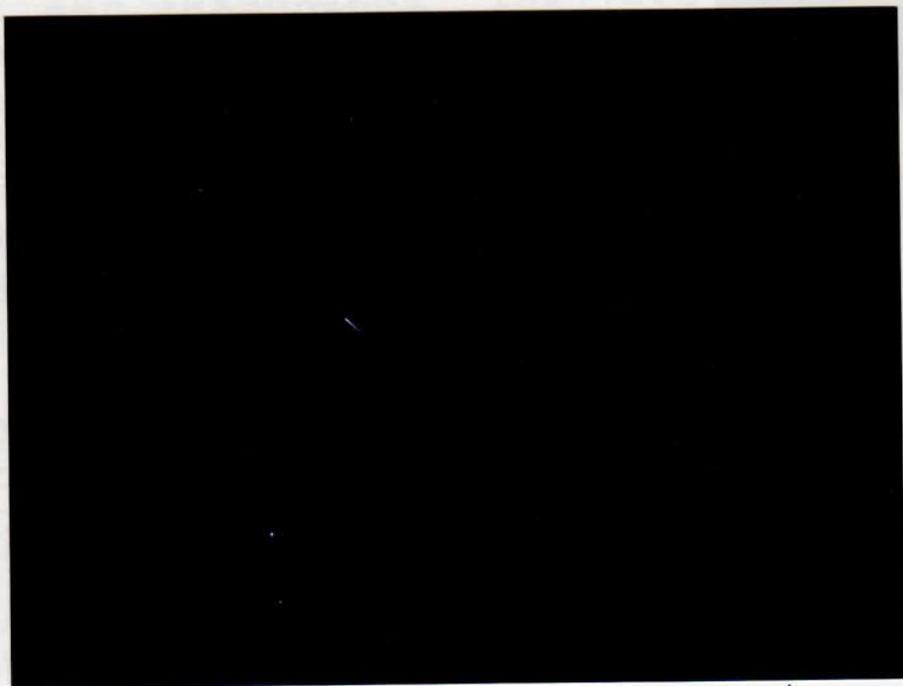


星屑

No.320
Nov. '01



イリジウム衛星
撮影 中尾富作氏

熊本県民天文台

熊本県民天文台の開設20周年に向かって、2002年7月へ

「五嶋みどり リサイタル」の準備始まる

私たちの感性を表現する、オリジナルコンサートの実現を目指そう!



運営委員の集まる「トークアバウト」ではこの件について何度かお話をしたことがありますが、「星屑」誌上へは初登場だと思います。

当時、「天才的な少女バイオリニスト」としてデビューされた五嶋みどりさんは、現在、米国ニューヨークを拠点にして国際的に活躍しておられ、日本国内でも学校を巡るユニークなコンサート活動を展開されるなど、幅広くエネルギッシュな演奏活動を展開しておられます。また、来年(2002年)がちょうどデビュー20周年に当たられることから、新しい発想でのコンサートへの取り組みをも目指しておられるようです。

城南町の「火の君総合文化センター」の担当者から相談を持ちかけられたのは、夏休みに開催する「城南町子供フェスティバル」の打ち合わせ会議終了間際のことでした。

五嶋さんを支援しているSONY財団が、コンサートの開催を希望する中小規模のコンサートホールを募集していて、これに応募したいのだが、一つだけ条件があつて、開催に当たっては何かオリジナルな開催目的を持っているか、またはユニークな地域文化活動を行っ

ていること……とある。城南町に呼ぶのには何かアイデアが……とのこと。

即座に、「来年は天文台の20周年、『何か記念事業を』と思っていたが、文化センターの運営ボランティアの方々といっしょに、星や天文台に関係するコンサートができれば」と答えました。その後、文化センター側には熱心に対応していただき、どうやら「開催内定」を得るところまでこぎ着けました。開催時期は、来年、7月の最後の土・日 付近を中心に最終調整中とのこと。ただ、他の地域やほかのスケジュールとの調整もあつて、最終的な開催日時の「確定」は来年にずれ込むかもしれないそうです。

私は、このリサイタルに申し込む際、「リサイタル終了後に、できれば天文台で、(晴れていれば星空の下で)1曲ひいてもらえれば!」と希望を述べました。すかさず、「そんな無理なことを言っても実現するはずがない!」と応酬されてしまいましたが、私のこだわりは、古墳公園とその中に位置する現在の天文台にあります。

熊本天文研究会に始まり現在に至る私たちの活動、特に1982年に天文台を開設し一般公開を始めてから、それを担ってくださった多くの運営委員の方々の努力を振り返り、また、それを支えてくださる会員の皆さんとの一体感を、この天文台が象徴しているからです。

今年の九州スターフェスタの際、長崎から参加された富田さんは、「コンサートそのもの

よりも、もし天文台で1曲でも弾いてもらえるなら、是非その場に参加したい」といっておられました。共通する思いがあると私は感じました。

幸い、五嶋みどりさんは、演奏家が一方的に偶像化され、他方で観客が単なる傍観者になるという状況を望んでいませんし、しかも、コンサートにとって一番大切な要素は「テーマ」であると考えておられます。

来年7月の五嶋みどり リサイタルが決定した（諸般の事情で、まだおおびらな公表や宣伝はできないが）わけですから、私たちは、これからの準備過程の中で「私たちのコンサート」をどのようにつくっていくのか、そして、演奏者である五嶋みどりさんに何を期待するのかを明確に打ち出していく必要があると思います。

この星屑の印刷と発送準備を行う10月13日（土曜）夜のトークアバウトで、まず最初の討議を始めましょう。ついで、10月19日（金）

の夜、晴れていれば一般公開の日です、20時頃から文化センターの担当者と打ち合わせの会合を天文台で持ちます。10月25日には（昼間ですが）SONY財団の担当者と文化センターで第1回の打ち合わせが行われます。

こんなふうに、エネルギー的な五嶋みどりさんを「触媒」に、「天文台の20周年記念コンサート」が動き始めました。一部には、みどりさんのCDやDVDを買い込んで、どんな演奏家か？確かめている人も出始めました。「この人はすごい！」という声も届いています。

でも、五嶋みどりさんに「この天文台はすごい！」と言ってもらえるように、私たちがこのコンサートに主体的に関わることが大切だし、そうできるチャンスをもたらしたのです。皆さんの積極的な関与をお願いします。

この件に関する連絡は下記へどうぞ。

電話：0964-26-2026 つやしま

メールリスト：kcao@ml-c1.infoseek.co.jp

五嶋みどり プロフィール

大阪生まれ。ヴァイオリン教師であった母にその才能を見出され、10歳で渡米。名教師、ドロシー・デレイに師事。同年にはズーピン・メータ指揮ニューヨークフィルと共演、劇的なデビューとなった。その後カーネギーホールデビューも行い、名実ともに世界のトップヴァイオリニストの一人である。

デビュー後間もなくのこと、コンサート中に弦が切れた際に、楽団の楽器を借りて無事演奏を終えた。このエピソードはアメリカの小学校の教科書に掲載され、一躍全米の人気者になった。レコーディングではパガニーニの24のカプリースでデビュー、その驚異的なテクニックと深い音楽性が評価されグラミー賞にノミネートされた。その後のアルバムもビルボード誌にチャートインするなど、人気は高い。

演奏活動以外では、ボランティア活動にも力を入れ、みどり教育財団を設立。94年にはこうした活動が評価され、第25回サントリー音楽賞を受賞している。現在はリッチの使用していたガルネリ《ギブソン》を使用。

星の停車場(11) きよしちょう座・ちょうこくしつ座

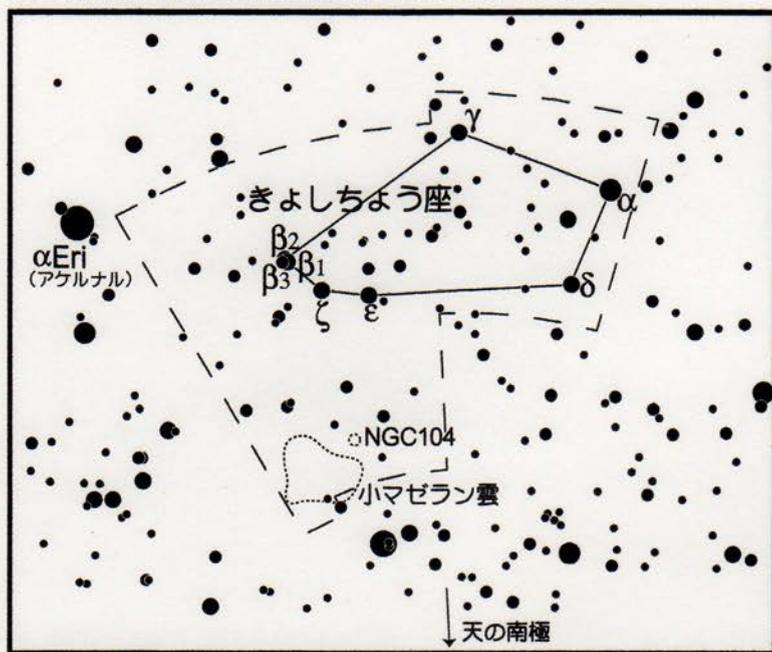
土山由紀子

先月に引き続き、11月も寂しい星空が続きます。11月の午後8時に南中する星座は、きよしちょう座、アンドロメダ座、うお座、ちょうこくしつ座の4つ。このうち、きよしちょう座は天の南極近くにあるため日本本土からは全く見ることができず、うお座とちょうこくしつ座は暗く目立たない星座です。唯一アンドロメダ座のみが、3個の2等星を含む確認しやすい星座ということができるでしょう。

先月は南天のインディアン座を紹介しましたので、引き続き南天の星座を巡ってみましょうか。

11月中旬に子午線を通るきよしちょう座は、巨嘴鳥(巨大な嘴の鳥)、中南米のジャングルに住むオオハシという鳥を象った星座です。インディアン座と同じく、バイエルが1603年に発行した『ウラノメトリア』で、オランダの航海士テオドルス(別名ケイザー)らの資料に基づき正式に書き表して知られるようになりました。

オオハシは派手な色彩の羽と嘴(くちばし)を持つ体長30~60cmくらいのキツツキ目の鳥で、大航海時代の探検家たちによって見つけられ、その好奇心溢れる美しい姿が賞賛されて南天へ置かれることになったといわれます。



この星座は、17世紀のイギリスで“ブラジルのかささぎ”と呼ばれ、17世紀のオランダの天文家カエシウスは、これをラテン語化した上、地理的に不適切として地名を取り替え“インドのかささぎ”と呼んでいます。また、ドイツのケプラー(1571-1630)、イタリアのリッチオーニ(1598-1671)らは“アメリカがちょう”と呼びました。19世紀の天体図や天球儀には American Gans の名が残っています。

きよしちょう座はつる座とほうおう座の南にあり、巨嘴鳥の尾のすぐ横に0.5等のエリダヌス座α星、アケルナルが輝いています。日本本土から全く見えない4星座のうちの一つですが、北緯30度以南の南西諸島へ行けば一部を見る事ができるでしょう。

きよしちょう座には固有名のついた星も神話もなく、一番明るいα星が2.9等。他の星が暗い(β1=4.4, β2=4.5, β3=5.1, γ=4.0, δ=4.5, ζ=4.2, ε=4.5)ため、不均衡に明るく見えるα星が不均衡に大きな嘴に対応し、巨嘴鳥の姿を描きます。巨嘴鳥の足は小マゼラン雲の上に乗る、小マゼラン雲のすぐ横には“星のポール”の愛称を持つ豪華な球状星団 NGC104が、にじんだ4.5等星のようにポツンと輝いています。



一方ちょうこくしつ座は、くじら座の南、みなみのうお座の東、ほうおう座の北の地平線近くに見られる暗い星座。南中時の熊本で、地平線から20度~30度ほどの高度になります。見るのが不可能な高さではありませんが、ちょうこくしつ座は4等星以下の暗い星ばかりで構成されている ($\alpha=4.3$, $\beta=4.4$, $\gamma=4.4$, $\delta=4.5$, $\theta=5.3$, $\iota=5.2$, $\pi=5.3$) ため、市街地での観察は難しいと思います。月のない夜の暗い空の下、フォーマルハウトの東をたどってみましょう。

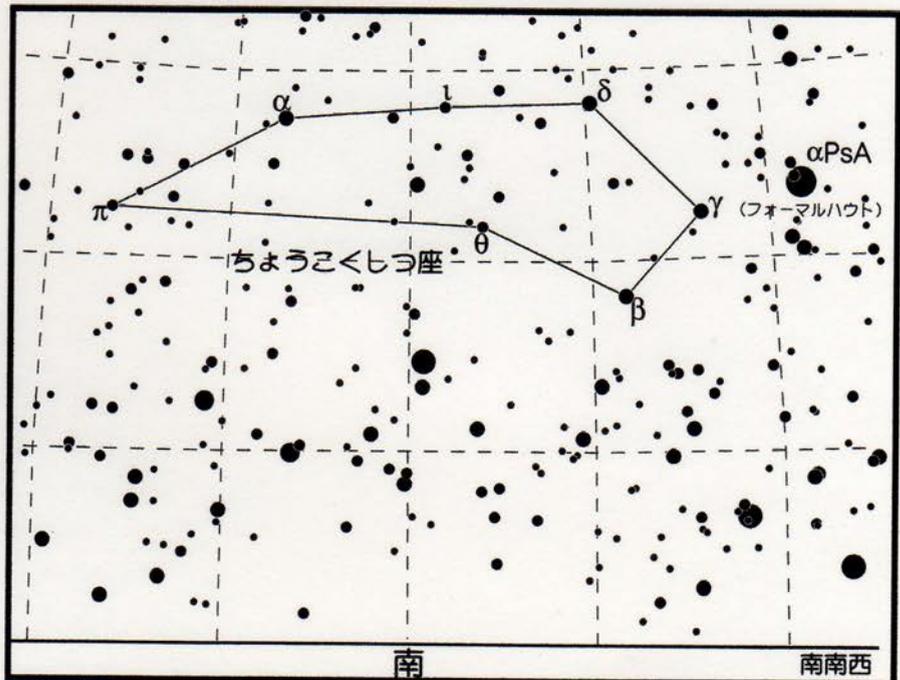
ちょうこくしつ座は、フランスの天文学者ラカイユが、もともと星座がなかった星域に新設した南天18星座の一つで、1763年に発行された彼の遺著によって知られるようになりました。ラカイユはフランス語で“彫刻家の仕事場(アトリエ)”という名をつけており、ラカイユの絵入り星図には、台に乗った作りかけの胸像と周辺に散らばったのみと槌が描かれています。ラテン語では、“彫刻家の道具”と呼ばれました。

ラカイユが作った星座は星列から星座を連想するのが難しく評判も今一つですが、けんびきょう・コンパス・とけい・はちぶんぎ・ほうえんきょう・レチクル・ろ等の星座の星座絵には、ヨーロッパのアンティークの雰囲気漂います。美しい星座絵が載った資料もありますので、眺める機会がありましたらじっくりと観賞してみてください。

設定した星座は今一つだったものの、ラカイユは優秀な天文学者でした。一旦は神学を学んで祭司となりますが、その後、独学で数学と天文学を学んでいます。やがて土星の環の“カッシニの空隙”で知られるカッシニとの出会いをきっかけに天文の道へ進み、喜望峰で南半球の天体を観測しました。測地学の技術を持ったラカイユの観測はその後、太陽と月の視直径の改良に繋がる重要なものとなったそうです。

設定した星座は今一つだったものの、ラカイユは優秀な天文学者でした。一旦は神学を学んで祭司となりますが、その後、独学で数学と天文学を学んでいます。やがて土星の環の“カッシニの空隙”で知られるカッシニとの出会いをきっかけに天文の道へ進み、喜望峰で南半球の天体を観測しました。測地学の技術を持ったラカイユの観測はその後、太陽と月の視直径の改良に繋がる重要なものとなったそうです。

設定した星座は今一つだったものの、ラカイユは優秀な天文学者でした。一旦は神学を学んで祭司となりますが、その後、独学で数学と天文学を学んでいます。やがて土星の環の“カッシニの空隙”で知られるカッシニとの出会いをきっかけに天文の道へ進み、喜望峰で南半球の天体を観測しました。測地学の技術を持ったラカイユの観測はその後、太陽と月の視直径の改良に繋がる重要なものとなったそうです。



自己紹介シリーズ その2

こんにちは。金曜日当番の西嶋です。遙かな昔に自己紹介をしたような気がするのですが、当番の自己紹介シリーズをということで、再びの自己紹介です。前回は覚えていての方がおられましたら多少の違いには目をつぶってください。(覚えている人いないって)

まずはプロフィールから・・・

名前：西嶋好美 (にしじまよしみ)

担当の曜日：金曜日

天文台歴：9年

好きな天体：やっぱりM42

性別：女

運営の得意技：うーんなんかあるかなあー最近星座のお話も忘れ気味だし・・・

住所：城南町鰐瀬旭ヶ丘団地 (旧天文台まで歩いて1分)

趣味：読書・創作・絵画・音楽鑑賞・山野草の採集および試食

とほほなお話し：

今を去る・・・年前。たまたま同じ職場にいた某ひげ氏に誘われてやってきたのが藤山の旧天文台。初めて見るM42に超感激!! 「いいなあー近ければもっと気楽に来れるのになあー」と言いつつ遠い遠い天草に帰ったのでした。

そして・・・年後たまたま出会った売り地の新聞記事。下見に来てみると、なんと、あ、あ、あの天文台のすぐ下ではないか!! 団地はいやだというクレームはあつという間に吹っ飛び、なんちゅう殺人的な急坂と言う不満もものの数ではなくなり、すぐにここに家を建てることにしたのでした。・・・ところが・・・「え?天文台?あそこ引越すよ」うっそー。何それ。土地買う前に教えてよおー。

と言うわけで、歩いて1分のはずが、原付で5分が変わってしまいました。とんでもない誤算です。歩いてと原付の違いは大きい・・・

まあ、いろいろと忙しい昨今ですが、なるべく体力を維持してまめに通おうと思っています。勉強はする意欲があるのですが、何せ、物覚えが悪いです。いろいろ難しい質問をされて、「えっとおー」と頼りない返事をしているのがたぶん私です・・・





名前：中尾 達也（なかお たつや）

担当の曜日：土曜日

天文台歴：5年

好きな天体：M27、かんむり座、いるか座

運営の得意技：最近、望遠鏡に天体を導入する速度がちょっと改善されたような…。もっとレパートリーを増やして得意技！にすべく、ただいま奮闘中です。

トホホ…なできごと：

あれは、忘れもしない1996年10月9日のこと。当時、大学1年生で県民天文台に通い始めたばかりだった私は、ふと思い立って天文部の友達と自転車で天文台に行くことにしたのであります。天文台までの道程は約20km。そして、ちょうどその中間地点くらいに差し掛かったとき、その事件は起こったのです。日も沈み、暗闇の中を走っていると、突然、目の前の道が無くなり、気が付くと私は幅2メートル、深さ1.8メートルくらいの溝の中にいました。ケガしなかったからトホホとして語れるようなものなのですが、自転車の前輪のフォークは曲がってしまい、残りの道程は自転車を押して歩いて、やっとのことで天文台に到着したのです。（ちなみにこの自転車は友達から借りたモノでした…）

そして、さらにトホホは続く…。

溝に落ちて泥まみれになってしまった私は、天文台でシャワーを浴びることにしました。さっそく、シャワーの栓をひねると…水しか出てこない。そう、お湯のスイッチは台所なのです。しかし、それを知らなかった私は、おかしいな～と思いながら、冷たさに耐えて水でシャワーを浴びたのであります。今でも天文台でシャワーの話になると、この事件のことが必ず出てきます。こうして、後世まで語り継がれていくのでしょうか。

さて、現在、私が溝に落ちたところには転落防止用の柵が設置されています。私が落ちなかったら、きっと設置されなかったことであらうでしょう。他の人々があの場所を安全に通行できるようになったのですから、この事件はトホホの中でも社会の役に立ったトホホなのですね♪

ひとこと：熊大天文部に所属していて、大学院で機械工学を専攻しています。トホホな行動が多いせいか、顔が似ている（？）せいか、「のび太」と呼ばれていたりもします。みなさん、よろしくお願ひしますね！

9月の県民天文台 ～運営日誌より～

開台率9日/14日=64.2% 一般来台者数80名 会員来台43名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
1日(土)	曇り	21名	艶島、徳尾 中尾、鹿釜	火星、電子紙芝居、北斗七星 YMCA 15名、熊大天文部4名(徳尾)
7日(金)	晴	10名	西嶋、小林J 立川、山田	台風で気流悪くボテボテ。但し天の川は近日になく素晴らしく感動しました(立川) 熊大天研5名は月見で一杯を実行するために来台
8日(土)	くもり	6名	中尾の、鹿釜	アークトゥルス、M13(中尾の) トークアバウト 艶島、西嶋、小林M、土山、中島 ・ 観月会 9/30(日) 月面勉強会 ・ しし群 11/17(土) ・ 火の君まつり 10/28(土) ・ 星屑 ・ 五嶋みどりコンサート
9日(日)	晴	なし	艶島、小林M	富永さん来台(小林M)
10日(月)	晴	4名	艶島、中島、 影山	役場より2名、松下電工より2名来台 防犯灯の実験。準備された器具が不十分だったので、来週の火曜日に再テストすることになりました。火星とM22を見てもらい、周囲の照明環境についても理解してもらいました。(Tsu)
16日(日)	快晴	3名+富 永君	Tsu、Tommy、 高田	城南町の会員さん、富永さん一家3名来台 火星、アルタイル、M22、M13他 球状星団や散開星団を見るのは初めてだったそうで大変よろこんでおられました。 (Tsu) デジカメでイリジウムの撮影に挑戦。デジカメで夏の大三角など一等星を撮影 (Tsu&Tommy)
21日(金)	曇り・ 晴	0名	西嶋、山田、 長谷	あーっっ晴れてるーっっと思ってあわてて来たのですが、来台者0でした(西嶋)
22日(土)	ハレ	10名+5 名(熊大 天文部)	高田、鹿釜、 中尾ト、艶島 中島、松本	天の川見えました。全天快晴でした。 月、M13、M7、アルビレオ、土星、アンドロメダγ、夏の大三角など。(鹿釜) 安達さん来台。
23日(日)	晴	21名	艶島、小林M、 中尾ト、松本 中尾の	月、火星、M22、M2、M31、M7、アンドロメダγ、アークトゥルス、電子紙芝居

24日(月)	くもり	ナシ	Tsu	雲の間に月が見えるので運営にきたけどお客さんなし。テレビを見て、照明器具のテストをして帰ります (Tsu)
28日(金)	くもり	0	松本、長谷	晴れたので来たら・・・。(はせ)

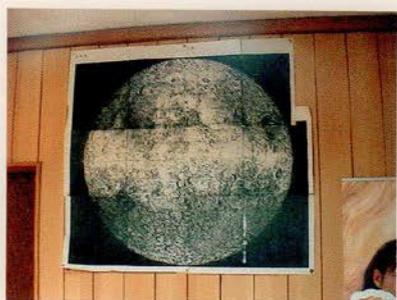
☆ 星空の見える街づくり ～ 番外編



この写真は9月10日に、松下電気さん、役場総務課職員を交えて行った防犯灯の実験です。通常の製品では、上方光束が多い(無駄な光が道路だけでなく夜空をも照らしている)ので、それを改善し、安い費用で簡単に改良できるようなら城南町の防犯灯に採用しようという目的で行われました。

天文台の2階に防犯灯を設置し、数種類の遮光板を取り付け地面の明るさを測定しました。少しずつですがこうした取り組みが成果を上げていくことを期待しています。(Tsu)

☆ 中止になってしまった観月会・・・その後



9月30日に熊大天文部の鹿釜くんを講師にして、観月会を兼ねた月面勉強会が行われることになっていましたが、残念ながら雨のために中止になってしまいました。そのときに使われるはずだった月面図は現在、熊大天文部の部室に飾られて、再び日の目を見るのを待っています。(のび太)



← この「志村けん」は天文台と関係ありません。
(熊大天文部所蔵)

すっかり秋ですね。果物の美味しい季節で、くっくっくと言ったところですが、いかがお過ごしですか。夜半過ぎには冬の星座と、惑星の王様の土星と木星が昇ってきていますよ。さすが土星は迫力がありますね。そして木星、いま丁度良いところにて、冬の大きな三角形が大菱形に。まあ早起きして見ていただくか、徹夜でもします？秋の星座でちょっと落ち着いてから、にぎやかになっている冬の星座に備えましょう。

☆H13年度分の会費納入をお願いします。正会員8000円 友の会会員5000円☆

☆ 11月の天文現象 & 行事 ☆

- 1日(木) 満月(14:41)
- 3日(土) おうし座流星群南群が極大 海王星が東矩(7.9等 視直径2.2")
おうし座ε星(3.6等)の星食
- 4日(日) 土星食(早朝青空の中での現象になります)
- 5日(月) 変光星アンドロメダ座Wが極大(周期396日 6.7等~14.6等)
- 7日(水) 立冬(りっとう…冬の始まりで、これより次第に冷氣深くなる)
- 8日(木) 下弦(21:21)
- 10日(土) トークアバウト(20:00~ 天文台にて)
- 12日(月) おうし座流星群北群が極大
- 15日(木) 新月(15:40)
- 17日(土) しし座流星群が極大
- 18日(日) 天王星が東矩(5.8等 視直径3.5")
- 20日(火) 変光星くじら座Rが極大(周期166日 7.3等~14.3等)
- 22日(木) 小雪(しょうせつ…寒気つのも、雨凍って雪となるという意味)
- 23日(金) 上弦(08:21)
- 24日(土) 133P/Elst Pizarro彗星が近日点通過(周期5.6年)
- 25日(日) 変光星ヘルクレス座RUが極大(周期485日 6.8等~14.3等)
変光星いて座Tが極大(周期395日 7.1等~12.9等)
- 29日(木) 小惑星ベスタが衝(6.5等 01:04)

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2001年11月号 通巻320号
 発行所 熊本県民天文台事務局 〒861-4226
 熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台
 TEL 0964-28-6060
 振替口座 01980-0-24463
 熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作
 ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>